

編集にあたって

日清製粉グループでは、ウェブサイト「CSRの窓」と「社会・環境レポート」(本冊子)の2つの媒体を通じて、ステークホルダーの皆様に当社グループの社会的責任に対する姿勢や取り組みをお伝えしています。

「CSRの窓」はCSRに関する取り組みの全体を紹介し、本冊子では当社グループが重要と考える課題に対する具体的な取り組みを中心に、わかりやすさに配慮して紹介しています。

なお、製作によって発生したCO₂は国内クレジットによりオフセット(相殺)され、地球温暖化防止と東日本大震災復興支援に役立てられています。

CSR活動についての詳細な情報は、当社ウェブサイト「CSRの窓」をご覧ください。

<http://www.nisshin.com/csr/>

日清製粉グループ 社会・環境レポート2017

発行者 株式会社日清製粉グループ本社
東京都千代田区神田錦町一丁目25番地
問い合わせ先 株式会社日清製粉グループ本社 技術本部 環境管理室
TEL.03-5282-6570 FAX.03-5282-6155
ホームページ <http://www.nisshin.com/>



この冊子に使用している用紙の売り上げの一部は、生物多様性を保全する活動に寄付されます。



石油系溶剤を植物油系成分に置き換えた印刷インキを使用しています。



印刷工程で有害廃液を出さない水なし印刷方式で印刷しています。



この冊子は色覚の個人差を問わず、より多くの人に見やすいカラーユニバーサルデザインに配慮して作られています。NPO法人カラーユニバーサルデザイン機構により認証されています。



見やすいユニバーサルデザインフォントを採用しています。



印刷サービスのグリーン購入に取り組んでいます。

健康と信頼をお届けする



結ぶ心、 つなげる未来

日清製粉グループ
社会・環境レポート2017

参考にしたガイドライン・指標など

GRI「サステナビリティ レポーティング ガイドライン」第4版

環境省「環境報告ガイドライン」(2012年版)

ISO26000「社会的責任に関する手引」

持続可能な開発目標(SDGs)

報告範囲

【対象期間】

2016年度(2016年4月1日～2017年3月31日)の事象を中心に報告しています。

【対象組織】

原則として(株)日清製粉グループ本社および連結子会社・持分法適用関連会社計58社(2017年3月末現在)を対象にしています。グループ全体の情報を十分に把握できていない事象については、報告の都度、対象組織を明示しています。なお環境報告の対象範囲は、(株)日清製粉グループ本社および連結子会社計47社となっています。

発行日について

2017年9月

グループの「総合力」を発揮した事業活動を通じて健康で豊かな生活づくりに貢献してまいります

4月1日に、日清製粉グループ本社の代表取締役社長に就任しました見目信樹でございます。

当社グループを取り巻く情勢は大きく変化し、しかも変化のスピードが速くなり、その意味で先行きは極めて不透明な状況にあります。また、地球規模の環境問題をはじめ、様々な資源や人口、食料需給のバランスなど社会的な課題は複雑化かつ多様化しています。国内に目を転ずると、少子高齢化や、人手不足の深刻化、消費も依然として低迷しており、本格的な経済回復にはまだ時間を要するものと思われま

す。このような状況において、2015年に合意されたパリ協定と国連が掲げた持続可能な開発目標（SDGs）、政府の方針で描く将来のあるべき姿には、企業の果たす役割が大きく期待され、長期的な視野での新しい発想が求められております。持続可能な社会を目指す世界の中で、当社グループが次のステップに向けて、グループ内外、国内外を問わず、様々な視点からボーダレスに物事を考え行動し、日清製粉グループの「総合力」を発揮できる環境を作り上げていきたいと考えております。

当社グループは1900年（明治33年）の創業以来、「信

を万事の本と為す」と「時代への適合」を社是とし、「健康で豊かな生活づくりに貢献する」ことを企業理念と位置付け、「企業は変化することによってのみ生存が可能となり、かつ発展を望み得る」との認識のもと、絶え間のない自己変革を遂げてまいりました。

2001年7月には創業100周年を機に分社化によるグループ体制に移行し、日清製粉グループ本社のもとに、製粉、加工食品、健康食品、バイオ、ペットフード、エンジニアリング、メッシュクロスなどの各事業が自由闊達に、よりスピーディーにお客様のご要望にお応えし、マーケットにベストフィットしてそれぞれの業界・領域でナンバーワンを目指すとともに、海外での事業拡大を推進し、柔軟で力強い組織として活動しております。

現在、当社グループでは、2020年度を最終年度とする新経営計画「NNI-120 II」において、収益基盤の再構築、及び将来に向けた成長戦略に積極的に取り組んでおりますが、これをゴールとせず、一つの通過点として、10年後、20年後を見据えた日清製粉グループのビジョンを描き、グ

ループの「総合力」を発揮して、さらなる拡大・成長を目指してまいります。

当社グループは、社会にとって真に必要な企業グループであり続けるため、食品安全、内部統制システムへの取組み、コンプライアンスの徹底、環境保全・社会貢献・人権尊重等、企業の社会的責任（CSR）を果たしつつ、「安全」・「安心」・「健康」をお届けする企業グループとして、株主、顧客、取引先、社員、社会等のすべてのステークホルダーから積極的に支持されるべく、努力を重ねております。

また、公益財団法人食生活研究会を通じて、食料及び食生活に関する研究者や研究機関への助成を行うなど、広く食生活の向上に貢献するとともに、震災被災地の支援、「製粉ミュージアム」による地域観光資源や教育資産としての地域貢献活動を行ってまいりました。

当社グループはこれからも、小麦粉をはじめとする安全・安心な製品をお届けするという使命を果たすとともに、社会の一員として、グループの「総合力」をさらに発揮した事業活動を通じて、健康で豊かな生活づくりに貢献してまいります。



株式会社日清製粉グループ本社

代表取締役
取締役社長

見目信樹



新経営計画のロゴマーク

【長期ビジョン策定に向けた基本方針】

当社グループは2020年度を最終年度とする経営計画「NNI-120 II」に取り組んでいます。これを一つの通過点として、10年後、20年後を見据えた日清製粉グループのビジョンを描き、グループの「総合力」を発揮して、更なる拡大・成長を目指してまいります。

1 時代へ適合したグループの「あるべき姿」の策定

10年後、20年後を見据えて、最大限にグループの「総合力」が発揮される当社グループの「あるべき姿」と「ありたい姿」を実現するための経営計画を策定する

2 自立と連合の再確認とグループ「総合力」の発揮

全ての役員・社員一人ひとりが、グループの内外、国内・海外を問わず、ボーダレスに思考し行動し、事業会社間の連携を強化することで、シナジーの最大化を図る

3 「ポートフォリオ」の継続的な見直し（成長分野への経営資源の集中的投入）

コア事業（製粉・加工食品）の収益基盤強化を図りながら更なる成長に注力し、中食・惣菜、酵母・バイオ等の成長分野の事業は積極的な展開を図る
同時にポートフォリオの強化を目指し、新規事業開発の取組みも加速する

4 経営を取り巻く環境に応じた既存事業の「モデルチェンジ」

人口減少や人手不足等の社会的課題、及び国際貿易交渉、市場の多様化、技術革新等の事業環境の変化に適合し、収益基盤再構築の更なる推進を図る

日清製粉グループの経営理念

企業理念

日清製粉グループは「信を万事の本と為す」と「時代への適合」を社是とし、「健康で豊かな生活づくりに貢献する」ことを企業理念として、生活産業をグローバルに展開してゆきます。

日清製粉グループの企業行動規範・社員行動指針

- | | |
|----------------------------|-----------------------------|
| 1. 健全な事業活動と持続的な発展 | 6. 環境保全の推進 |
| 2. 安心・安全で高品質な製品・サービスの開発と提供 | 7. 社会貢献活動の推進 |
| 3. 人間性の尊重 | 8. 現地に根ざした海外事業の推進 |
| 4. 社会規範の遵守と公正な企業活動の推進 | 9. 本規範及び指針の実現に向けての経営者の役割と責任 |
| 5. 適切な広報活動の推進 | |

グローバルに展開する 日清製粉グループ



製粉事業

業務用小麦粉

国内小麦粉市場において、パン・麺・菓子用など幅広いラインナップにより約4割の小麦粉を供給しています。さまざまなお客様の商品コンセプトに基づいた小麦粉の提案や新しい食文化の創造にも取り組んでいます。また、海外展開にも積極的に取り組んでおり、アメリカ、カナダ、タイ、ニュージーランドにおいて小麦粉の製造・販売を行っています。

食品事業

加工食品事業
ミックス粉やパスタ・パスタソース、乾麺などの小麦粉二次加工品を中心に、家庭用・業務用それぞれの市場において、「常温」「冷凍」の2つの温度帯の製品を販売しています。

中食・惣菜事業
素材、製法にこだわった和惣菜、おせち、調理麺、おにぎり・弁当、調理パン、サラダなどのおいしい商品をお届けする、日本の食卓をリードする総合中食・惣菜メーカーを目指します。

酵母・バイオ事業

製パン・製菓企業をはじめ中食・外食産業など幅広いお客様に、イースト、総菜、マヨネーズなどの食品素材を開発し提供しています。また、独自のバイオテクノロジーを用い、診断薬原料や研究用試薬を生産・販売しています。それに加え、医薬品の研究開発支援サービスなども提供しています。

持ち株会社である(株)日清製粉グループ本社を中心に、117年の歴史を持つ「製粉事業」と、製粉事業を通じて培った技術を起点に「加工食品」「中食・惣菜」「酵母・バイオ」「健康食品」「ペットフード」「エンジニアリング」「メッシュクロス」の分野で事業戦略を展開しています。当社グループの創業120年目となる2020年度を最終年度とする6年間の新経営計画「NNI-120 II」を新たに策定し、2015年度から取り組みをスタートしています。事業環境の変化に臨機に適合し、当社グループの持続的成長を目指します。

オセアニア

1カ国
3拠点

北アメリカ

2カ国
13拠点

その他事業

ペットフード事業
大切な家族の一員であるペットには、すこやかに暮らし、長生きしてもらいたい、というペットオーナーの願いに応えるため、安心かつ高品質なペットフードの研究・開発から製造、販売、そしてアフターフォローまで、ペットライフを総合的にサポートしています。

健康食品事業
お客様のニーズを捉えた安全・安心な栄養補助食品、機能性表示食品、健康食品のほか、固有技術を活かした高品質な医薬品原薬、医薬品製剤事業を展開しています。

エンジニアリング事業

製粉用ふるい網の技術から深化したメッシュテクノロジーは、スクリーン印刷用資材、フィルター、防虫網として自動車、住宅、通信、医療などさまざまな産業で活用されています。近年ではナノテクノロジーとの融合による機能性メッシュの開発など、暮らしに「健康」「快適」「安全」をお届けする新たな可能性に取り組んでいます。

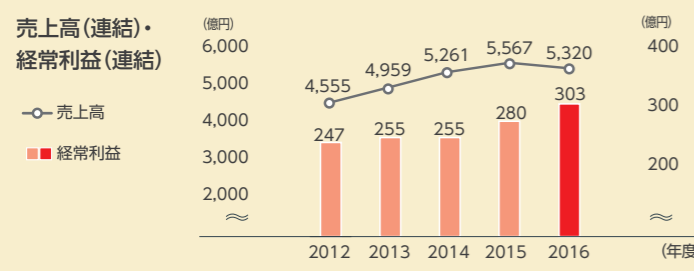
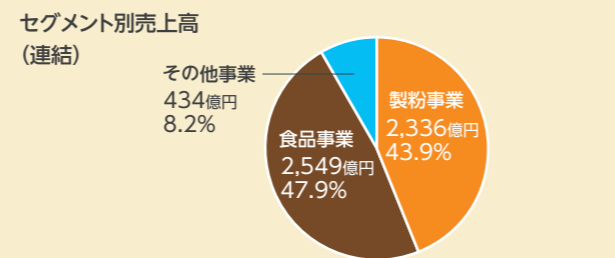
メッシュクロス事業

製粉用ふるい網の技術から深化したメッシュテクノロジーは、スクリーン印刷用資材、フィルター、防虫網として自動車、住宅、通信、医療などさまざまな産業で活用されています。近年ではナノテクノロジーとの融合による機能性メッシュの開発など、暮らしに「健康」「快適」「安全」をお届けする新たな可能性に取り組んでいます。

会社概要

2017年
3月31日現在

社名	株式会社日清製粉グループ本社
所在地	東京都千代田区神田錦町一丁目25番地
創業	1900年(明治33年)10月
資本金	17,117百万円
発行済株式の総数	304,357,891株



従業員の状況(連結)*

*従業員数は就業人員であり、臨時従業員は[]内に年間の平均人員を外数で記載しています。

事業	従業員数(人)
製粉事業	1,555 [114]
食品事業	3,593 [1,573]
その他事業	810 [333]
全社(共通)	366 [70]
合計	6,324 [2,089]

グループ会社一覧

- …連結子会社 ○…持分法適用会社 (2017年3月31日現在)
- 製粉事業**
 - 日清製粉株式会社
 - フレッシュ・フード・サービス株式会社
 - ヤマジョウ商事株式会社
 - ミラー・ミリング・カンパニー LLC (アメリカ)
 - チャンピオン製粉 Ltd. (ニュージーランド)
 - ロジャーズ・フーズ Ltd. (カナダ)
 - 日清STC製粉 Co., Ltd. (タイ)
 - NSTCTレーディング Co., Ltd. (タイ)
 - 石川株式会社
 - 新日清製粉食品(青島)有限公司(中国)
 - PT. インドネシア日清テックノミック(インドネシア)
 - メダリオン・フーズ Inc. (アメリカ)
 - タイ日清製粉 Co., Ltd. (タイ)
 - ベトナム日清製粉 Co., Ltd. (ベトナム)
 - トルコ日清製粉 A. S. (トルコ)
 - 健康食品事業**
 - OY インド Pvt.Ltd. (インド)
 - 日清ファルマ株式会社
 - その他事業**
 - 株式会社ジョイアス・フーズ
 - トオカツフーズ株式会社
 - 酵母・バイオ事業**
 - オリエンタル酵母工業株式会社
 - 株式会社パニーデリカ
 - 株式会社OYCフーズネット
 - 株式会社日本バイオリサーチセンター
 - 北山ラベス株式会社
 - 株式会社オリエンタルバイオサービス
 - 株式会社ケービーティー・オリエンタル
 - OYC アメリカ Inc. (アメリカ)
 - OYC ヨーロッパ B.V. (オランダ)
 - 食品事業**
 - 加工食品事業**
 - 日清フーズ株式会社
 - 日清製粉プレミックス株式会社
 - マ・マーマカロニ株式会社
 - イニシオフーズ株式会社
 - タイ日清テックノミック Co., Ltd. (タイ)
 - ペットフード事業**
 - 日清ペットフード株式会社
 - エンジニアリング事業**
 - 日清エンジニアリング株式会社
 - メッシュクロス事業**
 - 株式会社NBCメッシュテック
 - 株式会社NBCメタルメッシュ
 - PT. NBC インドネシア(インドネシア)
 - NBCメッシュテックアメリカズ Inc. (アメリカ)*
 - 恩美絲(上海)紗網貿易有限公司(中国)
 - NBCメッシュテック(タイ) Co., Ltd.
 - 持株会社**
 - 株式会社日清製粉グループ本社
 - 日清アソシエイツ株式会社
 - 錦葉(煙台)食品研究開発有限公司(中国)
 - 他 連結子会社4社**
 - 持分法適用会社4社
 - *2017年6月30日 社名変更

主要食糧の安定供給 (安全・安心)

国民の主要食糧である小麦粉等の安定供給を確保し、安全・安心な製品を供給するという使命を果たしてまいります。

グローバルな生産体制の構築

製粉事業において、海外11工場では北米の大幅な生産能力の増強を行い、国内9工場では臨海大型工場への生産集約を推進し、グローバルに小麦粉を供給できる体制構築を目指しています。また、加工食品では、パスタ(生産国:日本、米国、トルコ)、パスタソース(生産国:日本、タイ、ベトナム)、それぞれ3か国に生産拠点を配置しています。安定供給に向け、国内で培った技術力を活かしたグローバルな最適生産体制を構築しています。



新ライン増設に着手
(ミラーリングカンパニーLLC サジー工場)



国内臨海大型工場への生産集約
(日清製粉知多工場)



パスタ工場
(トルコ日清製粉A.S.)



パスタソース工場
(ベトナム日清製粉Co.,Ltd.)

ステークホルダーとの かかわり

日清製粉グループは、さまざまな機会を通じてステークホルダーの方々とコミュニケーションを図りながら、各ステークホルダーから積極的に支持され続けるグループになるよう努めています。

消費者志向経営の推進

消費者庁が推進する消費者志向経営に向けた取組みに賛同し、当社グループの理念や方針について「消費者志向自主宣言」を公表しました。当社グループはこれまで、消費者視点に立った品質保証やお客様の声の事業活動への反映など、消費者満足度向上に努めてきました。今後は、社会的・環境的に有益な製品やサービスの提供にさらに取り組むことで、持続可能な社会の構築に向け、消費者からの信頼を得て選ばれる企業を目指してまいります。

工場で開催された消費者懇談会

「工場見学等から学ぶ事業者の食品安全に関する取組みとリスクコミュニケーション」と題し、日清製粉東瀨工場において、消費者庁、兵庫県、大学生協関西西北陸事業連合の主催による工場見学会を開催しました。大学生22名が参加し、食品安全に対する理解を深めるとともに、有識者、消費者、行政による意見交換の機会となりました。



参加者による意見交換の様子
(日清製粉東瀨工場)



子どもが関見学デー(文部科学省・農林水産省)で開催した製粉体験教室の様子
小麦や小麦粉の性質、小麦粉がどのように作られるのかなど、簡単な実験を交えて楽しく学んでいただきました。



フラワー手づくり教室の様子
小麦粉を通じた食の大切さと手づくりの楽しさをお伝えしています。

環境保全

地球的規模での環境保全を図りながら、自由で活力ある企業活動を目指します。

環境負荷の少ない 製造の実現に向けて

地球温暖化対策と資源の有効利用について、当社グループは、2030年までの中期目標を策定しています。将来の事業の持続的成長を見据えながら、省エネルギー施策や徹底した生産効率の改善、資源の有効利用に積極的に努め、環境負荷の少ない製造の実現に向けてグループ全体で取り組んでいます。



大規模な太陽光発電の導入が進む製粉工場。完成時には工場の使用電力の約15%が再生可能エネルギーから供給される予定。(ミラーリングカンパニーLLC フレスノ工場)

物流における二酸化炭素排出削減

当社グループは、製品を運ぶ際の環境負荷の把握、包装容器の軽量化、貨車やトラックへの積載効率の向上、物流品質の向上、他社との共同配送などにより、環境負荷低減に努めています。



グループ全体での環境 マネジメントシステムの運用

当社グループはISO14001環境マネジメントシステムを運用しています。製造拠点だけでなく、オフィス、営業拠点、研究所を含めたグループ全体で一括認証を受け、環境経営を推進しています。2015年に改訂された新規格への移行を完了しており、システムの有効な運用と、事業と一体となった環境経営を実践していることについて審査機関により確認されています。

安全・安心な食品をお届けするために

製品開発、原料調達から製造、物流までの全ての工程で、食品防衛(フードディフェンス)を含めた安全性の確保に努めています。消費者の皆様においしく、安全・安心な食品を提供することを何よりも大切に考え、当社グループの社員一人ひとりが「消費者視点での品質保証」を実践しています。



分析作業の様子
(株)日清製粉グループ本社QEセンター

食品安全マネジメントの充実

日清製粉株式会社は、日本発の食品安全マネジメントシステム規格「JFS-E-C」の認証を国内の食品会社で初めて取得し、全国の製粉工場に導入しました。ISO22000、FSCC22000などに加え、新規格の導入により、「品質管理」と「食品安全」を強化しています。

※「JFS-E-C」は一般財団法人食品安全マネジメント協会による食品安全マネジメントシステムにおける製造部門の規格です。

食生活の向上を目指して

食生活研究会

公益財団法人食生活研究会では、食料及び食生活に関する基礎的研究の助成や講演会の開催等を行っています。また、大学や研究機関等の留学生への支援を通じて、日本の文化に触れて日本の良き理解者として母国と日本の「架け橋」となる人材の育成を支援しています。



奨学金支給の決定書授与式

次世代の活躍を願い

子どもたちへの教育支援、学生のインターンシッププログラム等を通じたキャリア形成の機会の提供により、次世代の活躍と成長を支援しています。



工学系学生向けインターンシップの様子(株)日清製粉グループ本社生産技術研究所)

多様なライフスタイルに応える



高機能、高品質の健康食品の開発(日清ファルマ)

◀中食・惣菜事業では手軽でおいしく召し上がれる多彩なメニューを提供(イニシオファーズ、ジョイア・ファーズ、トオカツファーズ)
信頼をベースに高品質の製品やサービスの提供により、少子高齢化などによる社会構造の変化や健康志向、疾病予防と健康増進など、食生活における多様なライフスタイルから生まれるニーズに応えています。



ラクホン大学で開催されたキャリア形成セミナーの様子

ベトナム日清製粉 Co.,Ltd. では、学生を対象としたキャリア形成セミナーの開催や経済的に支援が必要な学生に奨学金を給付することにより、将来を担う次世代の人材育成を支援しています。

環境授業の取組み

(株)日清製粉グループ本社環境管理室では、中学生や高校生を対象に環境授業を実施しています。授業では、環境配慮製品を提供する会社と、調理して食べる人ができる環境配慮行動について考えます。



環境授業の様子

信頼される企業であるために

私たちは健全な事業活動を通じて社会の発展に貢献します。

働きやすい職場づくり

現在、国を挙げて「働き方改革」「女性活躍推進」等が掲げられています。当社グループでは、この取組みを単なる労働時間の数量管理ではなく、生産性向上につながるよう取り組んでいます。そのために社員の能力発揮を促す仕組み、個人の価値観やライフステージに合った多様な働き方を選択できる仕組みづくり、社員が働き続けやすい環境整備に取り組んでいます。

ダイバーシティ推進のための取組み

女性活躍推進法行動計画 ・総合社員の女性採用比率 30%以上(〜平成31年3月31日)
・係長級に占める女性比率 30%以上(日清製粉グループ本社目標、男性社員の育児休業取得率 30%以上、事業会社はこれに準ずる)

海外事業における人材活用 ・当社グループの安全基準の徹底、技術の伝承
・現地人材の登用と経営の現地化の推進

総労働時間の削減運動の展開

ノー残業デーの実施、年次有給休暇の取得奨励など

能力開発の機会



社員の安全に関する研修風景

能力開発の機会提供として、各種研修制度のほか、技術研修所では、多様な業務に対する実践的なプログラムを提供しています。2016年度には新たに経営者育成プログラムを設置し、戦略的なキャリアパス設計を組合せ、コア人材の育成に取り組んでいます。

人権の尊重に向けた取組み

当社グループでは、国際的な人権基準である「世界人権宣言」を支持するとともに、企業行動規範に「人権性の尊重」を掲げ、社員行動指針を定めています。グループ内に人権啓発室を専門部署として設置し、役員・社員を対象とした研修や標語の募集等により、人権を身近なものとしてとらえることができるよう、啓発に努めています。

健康経営の実践

社員の健康を保つために、労働時間適正化、生活習慣病予防を目的とした特定保健指導や感染症予防対策の周知、メンタルヘルス対策など、健康保持・増進のための職場環境づくりを推進しています。また、(株)日清製粉グループ本社は経済産業省と日本健康会議が共同で選定する「健康経営優良法人 2017〜ホワイト500〜」(大規模法人部門)に優良健康経営**を積極的に実践している企業として認定されました。

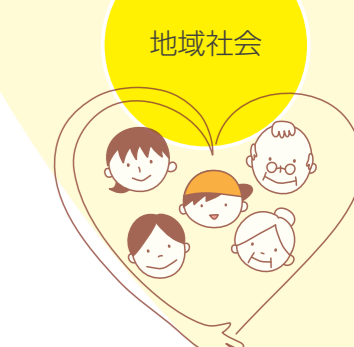


2017
健康経営優良法人
Health and productivity
ホワイト500
※健康経営優良法人認定制度:地域の健康課題に即した取組みや日本健康会議が進める健康増進の取組みをもとに、特に優良な健康経営を実施している企業などの法人を顕彰する制度
※健康経営は、NPO法人健康経営研究会の登録商標です。

コーポレートガバナンスの強化

「社員が誇りに思えるグループであり続ける」[長期的に見たグループ価値を増大する]ためにはコーポレートガバナンスの強化が重要であると認識しています。持ち株会社がグループの事業子会社を評価・監督する仕組みとして内部統制及び設備・安全、品質保証などの専門的な内部監査を制度化しています。また、コンプライアンスの強化として、各種社員教育では、法的責任とともに倫理的責任に重点をおいたプログラムを実施しています。

社会的役割を果たし、ステークホルダーから積極的に支持されるグループへ



主要なCSR活動実績

日清製粉グループの事業活動に伴う環境保全と社会的責任に関わる主要な実績についてご報告します。
(より詳細な情報については、当社ウェブサイト「CSRの窓」<http://www.nisshin.com/csr>をご覧ください。)

環境保全

日清製粉グループ中期環境目標

- 地球温暖化対策**
 - 2030年度までに2013年度比でCO₂総排出量26%削減(国内)
 - 2030年度までに2013年度比で原単位7.8%削減(海外)
- 資源の有効利用**
 - グループ全体でゼロエミッションを維持する(国内)
 - 2020年度までに事業場単位(国内)でもゼロエミッションの達成を目指す

	2014年度	2015年度	2016年度
CO ₂ 排出量 [千t-co ₂]	261	290	297
売上高原単位 [t-co ₂ /百万円] (国内)	0.486	0.475	0.488
廃棄物等総排出量 [千t]	57	60	60
再資源化率 [%] (国内)	99.8	99.9	99.9

【製造にかかわるCO₂排出量】(国内・海外)

- ・国内の排出係数は、一般電気事業者10社の全電源平均により算出。
- ・海外事業場の電気使用に係る排出量の算定は、GHGプロトコル(WRI)の係数を使用。

【廃棄物等総排出量】(国内・海外)

- ・産業廃棄物量+一般廃棄物量+有価物量

【再資源化率】(国内)

- ・(マテリアルリサイクル量+サーマルリサイクル量)÷廃棄物等総排出量

食品循環資源の再生利用 (食品リサイクル法に基づく)

	2014年度	2015年度	2016年度
食品廃棄物発生量 [千t]	10	11	11
再生利用実施率 (%)	99.7	99.7	99.7

水資源の利用

	2014年度	2015年度	2016年度
水資源投入量 [千m ³]	3,306	3,541	3,380
売上高原単位 [m ³ /百万円]	6.28	6.36	6.35
総排水量 [千m ³] (国内)	1,880	1,929	1,774

地域の自然や生物とのつながりを大切にする

当社グループの事業や製品にとって自然の恵みは欠くことのできないものです。自然や生き物とのつながりを知る、地域の環境を保全する活動を通じて、将来にわたって、自然の恵みが人々の健康で豊かな生活づくりの支えになるよう、取り組んでいます。

地域の水辺を保全するために

日清STC製粉(タイ)では水辺のマングローブ林を再生する活動に約100名の従業員が参加しました。マングローブ林は地球温暖化の主要因とされる二酸化炭素(CO₂)を吸収・貯蔵するほか、多様な生物の棲み処となります。また、高波や津波などの災害から地域の暮らしを守ることが期待されます。



サムットプラカーン県にある海岸における植林の様子

地域とのつながり

創業の地、群馬県館林市にある企業文化施設「製粉ミュージアム」では、地域の自然や生物とのつながりを調査しました。その結果、地域に生息する多種の鳥やチョウが飛来することがわかりました。



地域に生息するチョウ

環境マネジメント

工場・研究所・営業部署などのオフィスも含めて、ISO14001統合認証を取得し、外部審査や内部監査などを通じて、EMS(環境マネジメントシステム)の運用状況を確認しながら、継続的な改善を続けています。さらに独自の厳しい基準に基づいたグループ環境監査を実施しており、環境に関連した法令遵守や目標の達成状況などを確認しており、近年の改善命令や改善勧告の件数は低い水準を維持しています。

グループ環境監査の実績

	2014年度	2015年度	2016年度
実施事業会社数	13社	15社	13社
実施事業場	23か所	23か所	26か所

環境法令の順守

	2014年度	2015年度	2016年度
環境法令違反・重大環境事故発生件数	0件	0件	0件

働きやすい職場づくり

ダイバーシティの推進

	2014年度	2015年度	2016年度
新卒採用における女性比率	38.3%	29.8%	34.2%
社員に占める女性比率	18.3%	18.7%	20.1%
管理職に占める女性比率	3.7%	4.7%	5.8%
障がい者雇用率	2.32%	2.31%	2.56%

算定範囲:日清製粉グループ本社、日清製粉、日清フーズ、日清ペットフード、日清ファルマ、日清エンジニアリング、オリエンタル酵母工業、NBCメッシュテック

障がい者雇用率算定範囲:日清製粉グループ本社

人権啓発の取組み

	2014年度	2015年度	2016年度
人権啓発研修受講率	98.5%	99.6%	99.7%
人権啓発標語の応募数	2,210点	3,100点	3,421点

労働災害発生状況

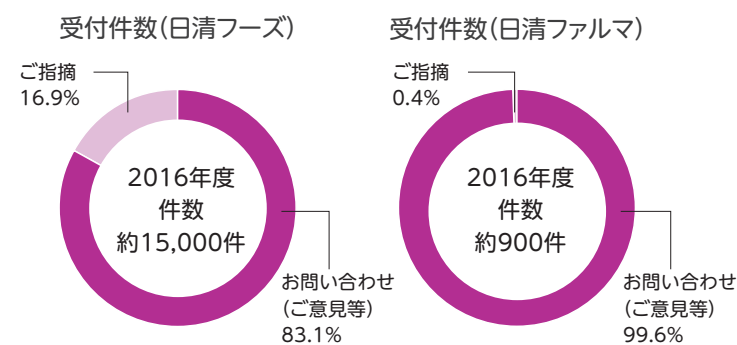
	2014年度	2015年度	2016年度
死亡災害件数	0	0	0
休業災害件数	5	3	4
休業災害度数率	1.35	0.76	0.77
不休災害件数	23	14	21
交通事故件数	100	91	81

算定範囲:日清製粉グループ本社、日清製粉、日清フーズ、日清ペットフード、日清ファルマ、日清エンジニアリング、オリエンタル酵母工業、NBCメッシュテック

休業災害度数率は製造および研究部門を対象

休業災害度数率とは、100万延べ実労働時間当たりの労働災害による死傷者数で、災害発生の頻度を表す。(参考)2016年度の製造業における休業災害度数率は1.15

お客様相談室の受付件数



当社グループに対する外部評価

日清製粉グループのCSR活動は、国内外の外部機関からの評価を受け、FTSE4Good IndexやSNAM サステナビリティ・インデックスなどの社会的責任投資(SRI)の構成銘柄に選定されています。

また、GPIF(年金積立金管理運用独立行政法人)が2017年7月に公表した日本株の運用に関する3つのESG指数『FTSE Blossom Japan Index』『MSCI ジャパン ESG セレクト・リーダーズ指数』『MSCI 日本株女性活躍指数(WIN)』について、(株)日清製粉グループ本社はすべての構成銘柄に選定されています。



社会貢献活動費について

2016年度の社会貢献活動への支出総額は2億4000万円です。
※経団連1%クラブ社会貢献活動実績調査の算出方法による

スポーツに携わる人たちの夢や挑戦を応援

当社グループは、スポーツに携わる人たちの夢や挑戦を応援する活動をしています。小麦粉を使ったスポーツ応援レシピの提案をはじめ、全国各地で開催されるスポーツイベントを応援しています。



スポーツ応援レシピ「こなサボ」
パワーの源となる小麦粉を使った栄養バランスのとれた献立のご提案とスポーツと食に関する情報をウェブサイトにて発信しています。

東日本大震災被災地でのクレイアート教室の開催

当社グループでは、東日本大震災被災地で日清アソシエイツの手芸粘土を使ったクレイアート教室を開催してきました。2016年度は地域コミュニティ活動のリーダーやNPOスタッフを対象に「手芸粘土教室(クレイアート)指導者養成講習会」を開催し、岩手、宮城、福島県の3県で21団体32名が受講しました。実際に受講者が地域で開催した手芸粘土教室への参加者は500名に及びます。



クレイアート指導者に寄贈された日清アソシエイツ(株)の手芸粘土とクレイアート作品